

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文天ビル2階

TEL: 03-5684-3188

FAX: 03-5684-3186

E-mail: yuai@yuaikyoukai.com

http://yuaikyoukai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

追悼

日本友愛協会 鳩山安子名誉会長



鳩山邦夫

日本友愛協会理事長

一年近く前、母が私に言うのです。「目の調子が悪く視力が落ちていくので、今のうちに、あなたの二人の孫の写真をよく見ておきたいから、写真を持ってきてね」と。さっそく福岡在住の娘の華子のところの七歳と三歳の男の子の写真を小さな額に入れて、母に見せました。じーっと食いつくように見つめながら母は「こりゃ、大変だ、本当に大変だ」とくり返し言うものですから、「何が大変なの?」と問うてみました。母が言うには「お兄ちゃんの方は育てやすいけど、下の子は大変だわ。わがままで負けん気が強く、親の言うことは全く聞かないから、ものすごく育てにくいはずよ。華子さんは下の子で苦労するね」と妙な予言をするのです。「何で、そんなことがわかるの?」下の俊ちゃんが素直な子かもしれないじゃないか」と言う私に、「そんなことはない。育てるのは大変だ」と予言を曲げません。「なぜわかるの?」とくり返し聞いてみると、「下の子は、あなたの小さい頃にそっくりだからね。華子さんは大変に苦労するに決まっている」と言いました。この会話、母は冗談で言っているのではなく、全く真顔で真剣そうだったのです。

たしかに私は気かん坊で、わがままで、言うことのかかぬ子どもだったろうと思っはいました。が、それほどに育てにくく、大変な苦労を母にかけてきたのだなあと、今さらのように感じ入った瞬間でありました。

母は鳩山のような家に嫁に来て苦労したでしょう。父のことも私たち三人の子どものことでも心配ばかりしていたと思います。

でも、母のすごさは、その苦労を生き甲斐に変えていくパワーを持っていたことではないでしょう。自分以外のことを心配ばかりし、そして世話をします。交通遺児や、ねむの木学園の世話にも熱心でした。そんな母こそ、

母の予言

鳩山一郎や威一郎、そして兄や私を越えた友愛精神の持ち主だったと断言できそうです。母は断じてゴッドマザーではなく、偉大な友愛の実践者でした。

鳩山由紀夫

日本友愛協会副理事長

おふくろ、ありがとう

祖父一郎の命日に谷中の墓地にお参りに行きました。まだ、父の隣の安子の文字は赤い色で塗られていました。ついにこの赤文字も親父と一緒に色になってしまふのだなあとと思うと、やはりこみ上げてくるものがありました。そして、心の中で「おふくろ、ありがとう」と頭を下げました。

母は人のために一生を尽くしてきた女性でした。実業家の石橋の家から政治家の鳩山の家に嫁いできて、苦労が多かったと思います。子供の頃、一言も勉強しなさいと言いませんでしたが、兄弟に家庭教師をつけて、いつの間にかレールを敷いてくれていました。表に出ることが嫌いで、親父が大臣になる際、外務大臣だけはやめてと盛んに言っていたことを思い出します。私ども兄弟を、親父が反対する中、こっそり支えて国会に送ったのも母でした。

男三人の中でも、母に最も苦労をかけたのは私でしょう。政治家が変なお金に手を出さないようにと、秘書を通じてたくさん送金してくれていた。私が知らなかったために、多くの方に大変に迷惑をかけてしまいました。子どもに内緒でこんなことをしてくれる母親はいないと思います。後にそのことのお礼とお詫びを言おうとしたら、「もう、その話はいいい」の一言でした。そんなことがあったからでしょうか、昨年末に私が政治家を辞めると母に伝えたら、非常に喜んでくれました。それだけに、これからは少しは母の孝行ができると思っていましたが、その矢先に母が逝ってしまったことは、とても残念で辛いです。

先日、姉が預かっていましただいい前に書いた母の遺言めいた手書きの文章を見ました。几帳面の母らしく、葬儀用の写真も入っていました。気丈な母も、父を誤解して泣いたと書いてありました。そして、兄弟が仲良くして欲しいというのが最大の願いでした。心配性の母に天国でまで心配をかけないように、兄弟仲良くしますので、天界から見てください。

「おふくろ、ありがとう」

井上和子

日本友愛協会評議員長

母の遺言状

一昨年の夏、いつものように二人でとりとめない話をしていたある日の午後。
「ねえ、たんすの一番下の引き出しに私の遺言が入っていると思うから、読んで」
「えっ、私が読んでいいの?」
「かまわないから読んで欲しいの」
晩年母は網膜の病気を患い、細かい字が読めなくなっていました。何か確認したい事があるのかもしれないと思い、躊躇しながらも私は遺言を探し出し、読み始めました。
「遺言状 平成十六年二月十五日」と書かれた封筒に入っていた便箋十枚にも亘る遺書は、言わば子供達への手紙のようなものでした。その中で母は自分の人生を次のように総括していました。
—— 私がいい母親であったか悪い母親であったか、又いい奥さんであったか悪い奥さんであったか自分では分かりませんが、一生懸命生きて来た事だけは確かです。
改まって言われなくても、母がどんなに一生懸命生きてきたか、私共家族は良く判っています。あの細い体で背負いきれない程の重い荷物を背負い、その一つ一つを持ち前の母性愛と理性と決断力で乗り越えたのです。
そう、母は決断の人でもありました。夫威一郎から譲り受けた音羽の家を「鳩山記念の家」として改修し一般に公開する事も、母は一人で決めました。この決断の裏には、この家を鳩山の御先祖様に喜ばれる形で遺したいという想いは勿論のこと、鳩山一郎という政治家に惚れこみ、物心両面で支え続けた父石橋正二郎もきつと喜んでくれるだろうという、敬愛する父親への深い想いがあった事を、私はこの「手紙」で知りました。
ローソクの炎が静かに消えるように九十年の人生に幕を下ろした母の願いは、次の言葉につきますでしょう。
『子供達はこの（*恵まれた家に生まれた）幸せを深く自覚し感謝すると共に、人々に対しては思いやりの心をもって正しく生きて行ってほしいと思います』（*筆者註）

鳩山安子名誉会長が語る

鳩山の父、母 夫威一郎 そして子供たち

平成25年2月11日、日本友愛協会鳩山安子名誉会長が逝去された。享年91歳。2月14日通夜祭、2月15日葬場祭がいずれも東京青山葬祭所に於いて神式にて執り行われた。故人に縁の多くの方々が参列し、故人との別れを惜しんだ。

本号は、鳩山安子名誉会長追悼の思いをもって編集を行った。平成13年4月、8回に亘り読売新聞に掲載されたインタビュー記事を全文掲載、話し言葉で綴られた記事には、鳩山安子名誉会長のお人柄と想いが溢れている。故人を偲ぶよすがとしていただきたい。

首相になった義父

モーニング準備
公職通報で幻に

夫の威一郎（元外相）と結婚する時、鳩山の父・一郎（元首相）と母・薫は、私を同居させることを申し出た実家・石橋の母に、「これは威一郎のうちです。安子さんと二人で家風をつくればいい。何も難しいことを私たちが教えることはないから自由にさせてあげてください」と言いました。

私びっくりしまして、まあ、自由というか大変明るい家だと思いましたね。本当に鳩山の母は、最後までそういう人でした。

鳩山の父・一郎のところに、尊敬する三木武吉先生（元日本自由党総務会長）をはじめ、政治家がずいぶん出入りしていらつしやいました。戦後、父は日本自由党を結成し、一九四六年の衆院選で大変な票をいただきました。

その時は、首相になれると思っておりましたので、母・薫と私とで、戦後初めてモーニングを出し、認証式に行く準備のため、手入れをしておりました。庭でそれをニュース映画の方がカメラで写されたりしましたけど、結局、すぐ公職追放でだめになってしまいましたね。追放の後、鳩山の父は熱海のほうの私どもの里の別荘に引つ込みました。

五一年に追放が解けた後、パレードをやったのは覚えております。ただ、私は主人がもともと大蔵省の役人だったので、どちらかというと選挙とか政治とかには関心がなかったものですから、申しわけ

ないことに、はたで見ているという感じでした。

父が五四年に念願がなくなって首相になった頃、私ども夫婦は麻布におりました。お祝いの日には、主人と一緒に子ども連れまして、父の音羽の家でその席に入りました。お庭に後援者がたくさんお集まりになっていましたね。

その後、私ども夫婦も音羽に引っ越し、鳩山の父母と一緒に住んだのですが、お客さんのことは、母と父の秘書とでやりますので、私は主にお手伝いさんのこととか、お庭のこととか裏の方のことをやっておりました。

鳩山の父が情熱を傾けていた大きな仕事の一つが五六年の日ソ国交回復交渉でした。私は子どもを抱え引っ越してきたばかりで、大変偉いことをなすったのはわかりますけど、細かいことはよくわかりませんでした。

ただ、鳩山の母は、父とともに最終的な交渉のため、モスクワに向けて羽田空港を飛び立つときは、生きて帰るかどうかわからないと思っていたようです。父はあんな体でしたし、大変なところへ行くわけですから。ソ連から帰りましたときに、ちようちん行列があったんでしょいか。それを邦夫が見て、「首相と言うのは大変偉いんだなと子ども心に思った」って言うておりましたね。

鳩山の父はバラが好きでございました。私ども夫婦が結婚して所帯をもった時、鳩山の父がバラの木を二、三本植えてくれました。だけど私はそれを枯らしてしまいました。全然かまう気がなくて。子どもができて、つわりで調

子が悪かったりしたせいもありますが、あとになって申しわけなかったなと思いますけれどもね。

鳩山家との縁

お見合い終え

夫はまた軍艦

私が鳩山家に嫁いだのは、

鳩山の父（二郎・元首相）に、実家の父・石橋正二郎を紹介してくださった方がいたことがきっかけでした。父親同士がお相撲見物や何かに一緒に行つて、おつき合ひするうちに、ちようどいい年齢の娘と息子が一人ずつあるからということが縁でした。

私は福岡県の久留米で生まれました。父・正二郎はゴム底の「アサヒ地下足袋」の製造から、タイヤ製造のブリヂストンを創業しましたが、私たちに工場をよく見学させてくれました。

私は小学校の六年まで向うの学校に行き、東京府立第二高等女学校（現・都立竹早高校）に五年、女子学習院高等

科に二年行きました。

石橋の父と母は教育に熱心で、東京の学校に入れるため、私に家庭教師のような方を一年間つけてくれました。父はモダンなことが好きな人で、試験勉強のために、私の部屋に一九三四年の当時としては珍しい冷房をつけてくれたりもしました。

印象深いのは、私が小学校六年生で女学校を受ける時に「文部大臣・鳩山一郎」というのを暗記したことですね。そのころは内閣の大臣のお名前をみな覚えさせられるんです。大変特徴のある名前だったものですから、よく覚えておりました。

実は、軽井沢の石橋と鳩山の別荘は近くにありました。でも結婚まえは他人でしたから、私はいつも鳩山の別荘のそばを自転車を通りながら、ブルーのワイシャツを着てお庭の仕事なんかをしていた鳩山の父を見て「ああ、あれが鳩山さんだな」というふうに思っておりました。

結婚話が出た当時、まだ主

人（威一郎・元外相）は軍艦に乗っておりまして。鳩山の母は、「威一郎に『石橋の娘とお見合ひしないか』と手紙を何度出しても返事がこなかった」と話していました。

お見合ひは、軽井沢の別荘で夏、おすし屋さんを鳩山の父が呼んでくれまして、鳩山の別荘で家族同士が集まって、大勢で一緒に食事をしたのが始まりでございました。

それでまた、主人は船に乗ってしまいましたが、主人がいない間は、主人の姉や妹が私をあちらこちらへ連れて行つてくれました。ですから主人との付き合ひ自体は短いんです。主人は私のことを「何と色の黒い娘だろう」と思っただようですね。

結婚については二、三縁談もございましたが、石橋の父から「どこへ行くか」と聞かれて、自分の意志というよりも、「お任せします」という感じで鳩山家に参りました。

学習院の先生は、「あなたは大変なおうちにいくことになるんですよ」とおっしゃいましたが、「ああ、そうか」ってそれほど気にもとめませんでした。でも、鳩山の父も母も偉い人だと結婚してつくづく感じましたね。

石橋の里の方は九州ですから、あいさつの仕方とか長幼の序とか、どちらかというところ格別ばっておりましたが、鳩山家へ来たら、伸び伸びとしておりました。

戦時下に結婚

二年間の出征で

「戦死」花輪二度

主人（威一郎・元外相）との結婚式は一九四二年、帝国



ホテル（東京）でありました。当時、灯火管制で、警戒警報が鳴ったり、時々、飛行機の音もするようになっておりました。でも、お友達や何か大勢呼びまして、五百五十人ぐらいたったでしょうか。鳩山の父の方の關係はずいぶん大勢でした。政治家ですから、呼んでくれって言う方がだんだん増えた、と言っておりました。

主人は海軍の短現で、（た んげん・短期現役海軍主計科士官）結婚したばかりのころ、海軍省の経理局におりましたけれど、四年の元日ですか、トラック島の方へ行くように命令が出ました。主人が二十五歳、私が二十一歳の時です。元日にうちを出て、横浜で家族で一泊しまして、二日の朝、飛行艇ですか、あの飛行機に船のようなのがついたのでたつていきました。

戦時中、主人から家族を気遣う手紙がありました。が、「おやじがあんなことを書いたかと思うと、恥ずかしくて読めない」と邦夫（元文相）が苦笑いしておりました。

自分が子どもを持って初めてわかりましたけど、やはり親と子のほうが、そういうときの気持ちは強いのもかもしれません。主人の行っている先が爆撃とか何とかを受けているということ、私も心配は



していましたが、やはり鳩山の父と母の喜びが一番強かったんじゃないかと思えますね。

翌日は元日で、近くの方に、お年始に主人と一緒に行きました。そうしたら、みなさん幽霊かと思つて。主人はいるはずないと思つておりましたから。実は、主人がもう戦死したらしいということで、二度ほど大蔵大臣から花輪がきました。結局は間違ひでした。が、妹と二人で「悲しいね」つてという話をしておりました。主人は終戦時はパオに

移つておりましたから、ジャングルの中にでも隠れていたでございましょう。

官界から政界へ

家族で選挙応援

外相就任に泣く

主人（威一郎・元外相）は戦後、大蔵省に戻りましたが、主人の仕事については、大蔵省の仕事にしろ、政治家になつてからの仕事にしろ、何も知らないでおりました。

ちょうど七一年の（ドル防衛の）ニクソン・ショックの時に大蔵省の事務次官でしたから、大変だったと思いますけれど、家庭では絶対、仕事の話はしなかったんです。これは主人のとてもいいところだと思ひます。

いづれにしても、自分ではあまり政治の世界に出る気はなかつたようです。大蔵省を辞めてしばらく講演なんかをしておりまして、これじゃあもつたないんじゃないかと思ひ、「選挙にお出になつたら」と言つたんですが、なかなかうんとは言ひませんでした。邦夫が「ぜひ政治家にな

れ」と熱心に勧め、田中角栄（元首相）さんも一生懸命勧めてくださいます。それで決心したんです。

七三年の五月ごろじゃなかつたかと思ひますが、角栄さんと一緒にゴルフへ行つて、帰つてきた時に「決めたよ」つて言ひました。「ああ、お決めたなつたんですか」と言つたら、「そうだ」と。

角栄先生と主人は、何か馬が合つたんですね。性格から何から対照的だつたんですが、それがおもしろかつたんでしよう。生れ年も一緒に、亡くなつた日も角栄先生の三日後。何かご縁があるようです。主人の通夜の日も、田中

鳩山家の子育て

野球でけんかも

口出しはさけた

長男の由紀夫（民主党代表）と二男の邦夫（元文相、自民党衆議院議員）は、子どものころ、よく兄弟げんかもいたしました。

七四年七月の主人の最初の選挙は、参院の全国区ですから、とにかく大変な選挙でございまして。でも、主人は疲れ知らずで、「これでいいのかな」というぐらい元気が良かったんです。

選挙期間になると、選挙カーが三台出ました。初日に邦夫が北海道、私が博多、主人が東京から出まして、二十三日間だつたと思ひますが、全国を回つたんですね。その時は、本当に選挙つて大変だと思ひました。

福田内閣（七六年）で主人が外務大臣になつた時は、私、一晩泣いたんですね。「私はそういうことに向いていないから」と言つて。主人は自分のことで忙しいものですか、何とも言ひませんでした。外国の方たちのおつき合ひとかは、一切自分の分ではないと思つておりました。

ど、学生のころは全然無口でしたし、主人も、何日も口をきかなくてもいいほどの人間ですから、二人が話をするというのは、非常に難しい。

それで、たつた一度私が機会を見つけて、今なら話がでるんじゃないかと、両方を会わせただけですね。

主人は「理学部に行けば教授に残れるけど、工学部に行けば教授にも残れるし、就職もできる」というようなことを言つていましたか。あとは由紀夫が自分で考えたと思ひますけどね。

兄弟政治家

雪上の応援演説

国会空転に苦言

邦夫（元文相）は子どものころから政治家になりたいと言つておりましたので、それはわかつておりましたが、由紀夫（民主党代表）が政治家になるとは夢にも思ひなかつたんです。

最初、由紀夫が政治家にというお話を聞いた時は、びっくりいたしました。まさかこの人がと思ひました。第一、無口でございましょう。今、民主党代表としてしゃべつて

いるのを見ると、本当に変わったと思ひます。由紀夫の本当の性格は大変やさしい性格で、邦夫の方は、包み隠しのない真つ正直な人間で、このまま大人になつたようないいかもしれませんね。

ただ、大学の学部を決めたりますような時は主人に相談してました。特に由紀夫が、進学先を理学部にするか、工学部にするかというような時ですね。由紀夫は今でこそあんなにおしゃべりをしますけど、

とに別れておりますけど、あとはもう好きなようにやつてきたと思ひますね。私ももう後援会の方にも失礼しがちで、よその方に「どうなんですか」と息子たちの様子に聞くと、

鳩山家の女性

孫の結婚話に

理解ある一言

祖母・春子は大変偉かつたようです。共立（女子職業学校）を始めたひとですから。母・薫も本心に偉い人で、勲

一等瑞宝章をいただいた価値のある人だつたと思ひます。鳩山の父（二郎・元首相）も、「薫は、威一郎がどんなに遅くまで勉強しても、いつでも起きて待つていたんだよ」と話してました。主人（威一郎・元外相）は、大学時代音羽の家の三階で勉強していたようですが、母は二階の自分の和室で正座して、教養のための女性誌みたいなものを読んで待つていたのでございましょう。

主人と結婚して、音羽のうちで一緒に暮らすようになった。母は主人が役所から帰つてくるまで起きていた。主人は夜の十一時、零時にクラクションを鳴らして坂を上がつてくるんですが、クラクションが鳴ると、母は自分の二階の部屋からそろそろ出て迎えるんです。ですから私は一切、早寝はできなかつたですね。

だからといって、母は一言も私に文句を言つたり、「あれしなさい」「これしなさい」ということは言ひませんでした。

音羽の家では、体が不自由な父に代わつて、母がお客様の応対をするということ。家庭のことは私に引き継いでくれました。納戸のかきから何から全部讀つて、「献立や何かもあなたがいいようになさい」つて。当時、お手伝いさんが七人ぐらいいました。が、全部任せられました。母・薫は子どものころ、裕福な暮らしではなかつたそう

（四面に続く）

歴史の継承
父母の魂を感じて
壊せず「遊び場」に
鳩山会館は、父（二郎・元首相）が四十歳代でこしらえたもので、大震災のすぐ後ですから、大変基礎がしっかりしているんです。鳩山の父と母の魂や何かが込められているような気がして、壊すに壊せないと思いました。かといって、よその方に譲るわけにもいかなしいし、修理して、みなさんの遊び場にしたらどうかと思って会館にいたしましたら、多くの方が来てくださいましたね。

一メートル四方ぐらいにはがして持っていくって、同じものを作ってもらいました。それを見本に張ってもらったりしまして、とてもよく再現できました。（展示品は）いろいろな（鳩山家ゆかりの）ものをなるべく失わないように保存しておりました。母のものが少なくて、ちよつと残念ですが、昔の着物などがありますね。

一九五八年、帝国ホテルでの父との金婚式で、母は結婚した時の着物を留めそでにして着たんです。佐藤栄作（元首相）さんとか、河野一郎（元農相）さんたちがいらしたのを覚えています。

近ごろ友愛という言葉が随分いろんなふうに使われますけど、父・一郎が友愛精神を広めるため、友愛青年連盟

（編集部註・発足時は日本友愛青年同志会。現日本友愛協会）を作ったのは一九五三年でした。いまだに父や主人（威一郎・元外相）の命日には、朝の八時に谷中（霊園）で墓参会をしますけど、多くの方が集まってくださいます。それが四十何年続いていますから、友愛精神が引き継がれていると思いますね。凶悪な犯罪が増えたりしておりますが、友愛というのは、今の時代に一番大事なことでないでしょうか。邦夫は今、自然との共生の問題に一生懸命なんです。このままだと、二十年たつたら地球がだめになる」と私にも言っています。政治よりそちに夢中になっていきますね。由紀夫の方は、学者だったはずが、今は民主党の代表として責任あ

る立場になりましたから、何とか党を伸ばさなければということでしょう。

今後は、本人たちの自由で私は何も言わないでいようと思っているんです。一緒の党になろうが、別になろうが、束縛するわけにはいきませんしね。つい口から出て、余計なことを言ったなど後で思うようなこともあります。一切引っ込んでいるつもりです。それぞれの考えで、それぞれ好きなようにやっていけばいいんだと思っていますね。

編集部註・個人の役職、所属などは、掲載当時のまま。平成十三年四月十七日より四月二十七日まで八回連載。読売新聞「時代を開いた女性たち」より全文掲載。（禁転載・転用）

またウィーンへ行かれる！
コンクール結果発表で名前を呼ばれた時、冷静を装いながらも心の中では大喜びの大興奮でした。

あちらでのコンサートは三月二十一日、そして以前から出演が決まっている日本でのコンサートは三月十九日。二十日に渡航し、到着の翌日にコンサートという多忙な日程ですが、どうしても出演させて頂きたい！事務局の方々に無理

シルクロードをゆく(六)

日本文化の底流「和」と「空」の思想

大洞龍明

シルクロードに係わって、日本への影響が大であった人物を二人挙げよと言われれば、一人はアレキサンダー大王、もう一人はクマラジュウ三蔵法師と私は答えます。

言うまでもなくアレキサンダーとその部下達は、ギリシヤから兵を興し、ペルシア王国を亡ぼして中近東を席巻・インドのガンジス河に至る広大な領土を支配しヘレニズム文化圏を形成しました。やがて仏教を受容してアポロン仏を誕生させシルクロードを通じて東アジア全体にゆきわたらせていきます。本来仏教徒

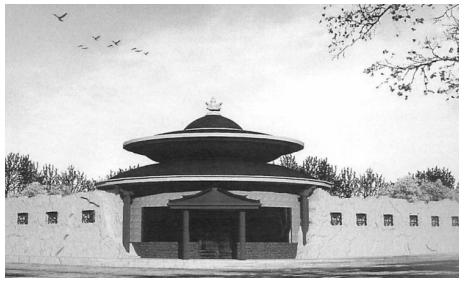
は釈迦の偶像を拝む習慣はなかったのですが、ヘレニズム文化の影響があれば、奈良の大仏をはじめとする仏像群は日本に今でも存在しなかった筈です。

今ひとりのクマラジュウは、三百巻に及ぶ仏教経典をシルクロードを通じて長安にもたらして漢訳し、特に大乘仏教の「空」の思想を東アジアに伝えたことに大きな意義があります。

日本の主な宗派である天台・日蓮・浄土・真宗や禅宗の各教団は、彼が伝え翻訳した経典を用いて教義の根本に



アポロン仏 釈迦像



キジ王国遺跡 クチャ



草堂寺クマラジュウ舍利塔

世界遺産の指定を受けようとしているキジル石窟の正面に約千平方メートルの記念館を新設しクマラジュウを偲ぶさまざまな資料を展示します。

●二つ目は、彼が生まれた王城跡に、銅像を建立します。約七メートルの高さで、彼の四十才頃の姿を刻んでもらいます。

●三番目は、史料に目を通している中で、廬山の慧遠と

を承知で、熱い思いのお願いをいたしました。

音楽の都で歌うというのは、それほど魅力的なこと

です。

コンサートではウィーンゆかりの作曲家モーツァルトとRシユトラウス、そしてフォーレと中田喜直さんの歌曲を演奏致します。それぞれの作曲家の魅力、一曲一曲のキャラクターの違い、言葉と音楽の美しい調和、伝えたいことは沢山あります。伴奏はウィーン国

立音大で師事しております、ピアノリストのワルター・モーア先生が務めて下さいます。限られた時間のリハーサルとなりますが、先生とでしたら安心してのびのび演奏できることでしょう。

自然体で音楽と向き合い、そこから生まれてくる感動を大切にしながら準備を進めております。当日は音楽を通して、お客様と喜びを分かち合えれば幸いです。

と思うと「ワクワク」しているのです。

シルクロードのロマンを駆け抜けた私の拙文におつき合い頂いた皆さんに心から感謝申し上げます。

(終)

「時事川柳研究会」会長 服部迪夫さんの作品

時事川柳 服部迪夫 作

―鳩山家
友愛のタスキをつなぐお母さん

―大詩人の死
一〇一の詩集にそつと羽が生え

―市民ランナー
食事でもするかのよう駆け抜ける

―大鵬
大きさを実感させる栄誉賞―樗途絶える

強風に樗ちぎれる中央大

編集後記

◆二月十一日以来、心が空ろで定まらず、なんとなく埋まらない。いつかはこんな時が来ると覚悟はしていたものの、いざ現実となると虚しさだけが残り、ただ残念。そして人の世の侘びしさと儚さを味わう。死は生より確かにやってくる。これからは亡き人に誉めてもらえる人になりたい。わたしの本当の人生がこれから始まる。晩節こそ我が命。そして人生の全て。そんな気のする今である。

◆先月十五日、鳩山安子名誉会長の葬場祭が行われた。寒い中多くの弔問客が青山斎場を訪れた。友愛新旧の関係者が集い、故人の生前のご活躍、お人柄を偲び語り合っている姿が目についた。これも故人が引き合わせてくれた縁でもあろう。最後まで、友愛精神に溢れた故人に心から感謝の意を表し、ご冥福をお祈りしたい。

(GO)

◆現在過去未来と安易に並べて使う。私自身、何気なく使っていたとも言える。しかし、鳩山安子名誉会長のご逝去から通夜祭、葬場祭までの日々の中で、確実な過去があり、今という時を創り、未来に繋がっている、人の心にある現在過去未来を感じた。そう思わせることが、現世での徳といわれるのだらう。過去が今生み今が未来を生むのなら、日々是精進と改めて心に誓う。多くの人に慕われた名誉会長、凜としたお姿を心に刻み、合掌。

(も)